

コモンス国葬

コモンスとは…労働者農民市民が協働して、国家と私を超えた自治と生産の共同の場を、共につくり合うこと



▲安葬する元首相の国葬(1967年)の停止を求め、元首相の国葬に反対するデモ

2022.9.15 第165号

■発行所/コモンス
■編集機関紙局/東京都中野区新井2-7-12-25号
コモンス政策研究機構内
■電話:03-3389-0411 Fax:03-3389-8573
■編集/革命21
■The Communist Association for Revolution Movement 21
■郵送購読料/1部500円 半年2500円(1年5000円)
■郵便振替口座/00100-5-391171(コモンス政策研究機構)
■ウェブサイトをhttp://www.com21.jp
■Eメール:rev@com21.jp



辺野古新基地ストップ！ 県民の民意は1ミリも揺るがない 二度と沖縄を戦場にしない！ 誰ひとり取り残さない沖縄へ

沖縄の命運を左右し、国政に大きな影響を与える沖縄県知事選で玉城デニー知事が、投票締め切りと同時に午後8時、テレビ各社で当選が報道されました。
選挙戦では、誰ひとり取り残さない県政運営で中学卒業までの子ども医療費の窓口無料化、中高生を対象としたバス、モノレールの通学無料化など、297施策のうち287施策を推進してきた実績が高く評価されました。
自民党は候補者に辺野古容認の踏み絵を踏ませ、自民党中央・官邸主導で選挙戦を展開し、政権あげての物量作戦、企業・団体を期日前で強引に締め付けてきました。
オール沖縄に結集する玉城デニー陣営は心をひとつに団結の力でこれを跳ね返し、勝利することができました。

復帰50年目を迎えた節目の時期に戦争への動きが強まる中、「二度と沖縄を戦場にしない」「辺野古新基地ストップ」「誰ひとり取り残さない沖縄らしい社会」を訴えた玉城デニー候補の勝利は、自公政権に大きな打撃を与えました。
「沖縄のようにたたかえば政治を変えることができる」
——全国に確信を与える歴史的勝利となりました。デニー知事再選にぬちかじり頑張りぬいたみなさん、お疲れ様でした。
うちなーんちゅ うせーてー ないびらん
どー くすーよー ちばらなやーさい！
〔玉城デニー必勝！ひやみかち・うまんちゅの会〕NEWS・23より転載

沖縄のように闘えば政治は変えられる

岸田首相は、自民党と統一教会の癒着、安倍元首相の「国葬」決定、コロナ拡大、物価高騰に対する無策などでの支持率急落を止め、政権浮揚を図るため内閣改造し第2次岸田自公政権を発足させた。しかし「統一教会隠し」は破綻。新内閣の閣僚のうち8人が、54人の副大臣・政務官のうち20人が次々と関係を認め、事態は最近の自民党議員の「点検」結果に見るように、統一教会と自民党国会地方議員との癒着・汚染は底なし沼の様相である。
また「統一教会との蜜月」の中心人物である安倍元首相の「国葬」反対が弁護士、学者、女性、宗教者に拡がり、声明や署名運動、国葬差し止め提訴、国会前をはじめ全国各地で「中止」を求める行動が日に日に拡がっている。(関連を参照)わずか2か月前の参議院選で圧勝し「黄金の3年を迎える」と豪語し、「安倍政治」の継承、9条改憲・大軍拡・戦争国家への道を急ぐ岸田政権の歯車は逆転し、やることを自ら見えて、支持率32%と最低で政権の危機へとつながるような嫌地獄にはまったかに見える。そこに県知事選で「オール沖縄」の玉城デニー氏が自公丸抱えの候補に圧勝し、岸田政権に痛打を浴びせた。この勝利で潮目は変わった！
「沖縄のように闘えば政治を変えることはできる」——沖縄から全国へ、新たな闘いの機軸だ。「安倍国葬」反対の運動は、統一教会問題とともに、岸田自公政権を追い詰め、その野望を打ち砕く好機である。

岸田政権の誤算！政権の危機深まる
改憲・辺野古新基地建設・戦争国家への道を阻止しよう！

安倍「国葬」を撤回・中止せよ

なぜ、安倍「国葬」に反対するか
私たちは「国葬」に反対する。改める理由を簡単に整理すれば以下である。
●第1に、「モリカケ」で野の国家の私物化、「辺野古」の強行、安保法制「戦争法」強行で米軍一体の自衛隊の集団的自衛権行使の道を開き、憲法9条の平和主義と立憲主義を破壊し、統一教会の中心的広告塔となってきた安倍元首相とその政治の「大罪」を隠蔽し、賛美する「国葬」は、民主主義に反し、絶対に許されぬ。

岸田政権が理想の「国葬」反対の声を拡がりに驚愕しながらも、あくまで強行しようとする、その狙いは何か。
一言で言えば、戦前の帝国日本がアジアへの侵略戦争を総力戦で戦い抜くために行われた「国葬」による精神を引き継ぎ、安倍「国葬」を執り行うことで、内において自らの保身と権力拡大のために自民党内部で、対外的には反改憲・反安倍の市民・諸運動を切り崩すもので、内閣独裁に通じる暴挙である。
「国葬」は、戦前、天皇と国家に貢献したものに對して天皇から「賜る」ものとして行われる天皇專制国家を支える儀式であった。
その根拠とされた「国葬令」は、戦後、日本国憲法の国民主権・象徴天皇制や基本的人権に反するものとして失効している。
現に2017年10月、内閣法制局は「制度として現行憲法とは相いれないような性格を有する」と断じた。
にもかかわらず岸田政権は「内閣設置法(内閣の行う事務の範囲を定める組織規程に過ぎない)を持ち出し「国葬儀」と言い換えて強行しようとしているが、言えはいうほどにその無理・無法な

反対拡がり「国葬」強行の狙いは破綻 戦争国家への総動員の企みを打ち砕こう！

岸田政権は自らの誤算・失敗が招いた政権危機への崖っぷちに立っている。沖縄県知事選での「オール沖縄」の勝利に学び、今後の政局流動化・早期解散総選挙・政権交代への展望を切り開く気概を持って闘う時である。
安倍「国葬」反対の闘いの大きな発展で、岸田政権を包圍し追い詰めて、政権打倒への流れをつくり出す！
9月12日記

9・27「国葬」強行に抗議！
安倍元首相国葬反対！国会正門前大行動に集まるっ。
14時～国会正門前

●第3に、16億6000万円の巨費を、法的根拠もなく国会での審議も議決もない憲法破壊の「国葬」に対して税金から使うことは、「国の財政を処理する権限は、国会の議決」による憲法88条の財政民主主義の原則に違反する。
この費用はさらに膨れ上がり総額37億円とも数十億とも報じられている。国家予算は、アベノミクスによる格差・貧困拡大の中で、コロナ禍、物価高騰による命と生活危機に苦しむ人々のために使うべきだ。
以上の理由で、私たちは安倍元首相の「国葬」実施に反対し「国葬中止」を求める。





■編集部より「ノーマン沖戦 命と金のオプザバー」で軍事評論家小西誠氏が、同会メルマガ等に投稿した標題論考で、米軍事筋介入によるウクライナ戦争の誘発、「台湾有事」世論煽動への戦略性、さらには今後の洞察が示されている。また氏が論考末尾で例示した米最大知識人N・チョムスキーのYoutube動画要旨も左記に掲載する。

米国の2022年「国家防衛戦略」NDS

ウクライナ戦争開戦からおよそ1年後の2022年9月30日、米国防務省の2022年「国家防衛戦略」(NDS)が、バイデン政権初の国家防衛戦略として策定・発表された。

この国防戦略は、先ずは公開されていないが、驚くほどバイデン政権が対中国戦略にありながら、ロシアでは中国を「最重要の戦略的競争相手」と位置づけ、中国を優先して明記している。



具体的には、ロシアは深刻な脅威だが、インド太平洋地域における中国を優先して、次いで欧州におけるロシアをあけて、ロシアは中国と並んで、要約のみが公表されている。

今回発表された米国の「国家防衛戦略」(NDS)は、トランプ政権下の「国家安全保障戦略」(NSS)に「国防総省の「国家安全保障戦略」(NSS)の2018年1月を踏襲したものである。

つまり、トランプ政権からバイデン政権に移行しても、

他国に戦わせ、米兵士犠牲ゼロで 中露弱体化狙う米戦略

米国の世界戦略—新冷戦戦略—全変更に伴い、米国防務省の「国家防衛戦略」(NDS)が2022年9月30日に公表された。

この中で、米国防務省は、米国防務省の「国家防衛戦略」(NDS)が2022年9月30日に公表された。

この中で、米国防務省は、米国防務省の「国家防衛戦略」(NDS)が2022年9月30日に公表された。

新たな戦争の火種…アジア版NATO体制作りへ急ピッチ

●太平洋抑止イニシアティブ(P-3)と欧州抑止イニシアティブ(E-3)を米国防務省が、この「国家防衛戦略」(NDS)の中で、自国の「国家安全保障戦略」(NSS)と並んで、要約のみが公表されている。

英国女王エリザベス2世死去

だが拭えない植民地時代の負の遺産

今回の世界最高齢の女王エリザベス2世の死は、我が国やアフリカの歴史の悲劇的遺産を思い起こさせる。この声明を発表するエリザベス女王は、南アフリカ内戦での英領土の関与を振り返る。独立しようとしていたヒアフラに抵抗すべく英国から政府側武器が供給され、その内紛で最大300万人が命を落とし、J・レソンの内戦を引き起こしたこの英国への抗議として大英帝国勲章を女王に返上した。

000億)が計上されて、このE-3の最大の目的は、近代的軍隊であるロシア軍との戦闘を視野に入れ、重装備部隊の欧州への展開を重視している。

もちろん、このE-3もまた、基本方針(1)別立での海外作戦経費からの資金である。

こうして、米国防務省の「国家防衛戦略」(NDS)が2022年9月30日に公表された。

シリアでロシアの勢力に限定した支援を行っており、さらには支援を行う可能性もあるため、ロシアのロシア軍との戦闘を視野に入れ、重装備部隊の欧州への展開を重視している。

もちろん、このE-3もまた、基本方針(1)別立での海外作戦経費からの資金である。

こうして、米国防務省の「国家防衛戦略」(NDS)が2022年9月30日に公表された。

国際短信

中国共産党、10月に第20回全国代表会議

中国共産党中央政治局は8月30日会議で、第20回全国代表大会を10月16日北京市で開催する事決定した。

全国代表大会は5年に1度の開催で、党指導部となる中央委員会選出や、

大野和興さん 共同監督 村の戦後史を描く映画

『出稼ぎの時代から』完成



▲映画「出稼ぎの時代から」DVD

わが国の農業・食糧問題ジャーナリストで日刊ヘリタ編集長の
大野和興さんが共同監督した記録映画が完成した。雪深い山形県から戦後復興・高度経済成長を支えた村と人の出稼ぎの歴史が克明に記された映画制作への思いを大野さんが記している。

ほぼ1年かけて作ってきた出稼ぎの記録映画『出稼ぎの時代から』が完成した。このドキュメンタリーは、半世紀以上前につづられた出稼ぎの記録映像の倉庫からたどり着いて発見されたことと編み落して制作したのは当時20歳だった出稼ぎ青年大野和興さん。そのスライドが本木さんから筆者の元に届き、その



▼「出稼ぎ」の村を出発する村人

村人の証言を元に、戦後の「むらじゆん」の物語を紡ぐ

この映画を核に、その後、監督は本木さんと筆者が共同監督の形で務め、国際有機農業映画祭の仲間、菊地富夫さんが中心になって制作委員会が作られ、コロナの合間を縫いながら白

「昭和の妖怪」「A級戦犯」「満洲を創った男」そして「安倍晋三の祖父」。我々は岸信介を語り、早稲田の源流に青年期の北一輝との邂逅や、大川を通過した昭和という時代と述べられている。また岸自身はマルクス等の影響は無いとしながら、満洲における彼の活動に国家社会主義的な面があるのも興味深い。



大野和興さん

山中大阪労働学校 9月講座

■九月の本校の講座は以下の二講座です。概要を紹介いたします。【学長 斎藤日出治】

1. 社会運動と社会教育講座（奥村旅人講師）

前回は「戦前の大阪労働学校を取り上げた」社会運動と社会教育講座は、今回（第三回は戦後期に誕生した京都人文学園をとりあげます。一九五七年に労働問題や社会科学を軸にスタートしたこの民間学校は労働者教育から市民教育へ国家や階級といった全体の視点が



津田直則講師の最新刊

会規範（労働者・障がい者・先住民・女性・マイノリティなど社会的弱者の権利平等）を分配公正な社会関係を創造していかなくばならない。そのような共通の社会規範を創造する場として労働学校や社会人学校が存在意義はかぎりなく大きい。このことを本講座は明らかにし、

2. 協同組合講座（津田直則講師）

第三回の協同組合論は、株式会社労働者協同組合へ転換がテーマです。この転換は、机の上論ではなく米国のすでに半世紀の歴史を刻んでいます。米国内では株式会社自身が従業員に無償で自社の株式を譲渡する制度（従業員株式所有計画ESOP）がすでに一九七四年に法制化されています。この制度は株式会社にとって倒産の危機に陥った株式会社を

教育と愛国

監督・音加尚代
2022年/107分/きくくひと配給
ひとりの記者が見続けた、教育現場に迫る危機教科書で、いま、何が起きているのか？



監督・音加尚代

妖怪と呼ばれた政治家の闇の「戦前―戦後史」総覧

権勢の政治家
原彬久 著 / 岩波書店

「昭和の妖怪」「A級戦犯」「満洲を創った男」そして「安倍晋三の祖父」。我々は岸信介を語り、早稲田の源流に青年期の北一輝との邂逅や、大川を通過した昭和という時代と述べられている。また岸自身はマルクス等の影響は無いとしながら、満洲における彼の活動に国家社会主義的な面があるのも興味深い。

戦を記述する教科書を探した学校に押し寄せる大量の抗議ハガキ。政治介入ともいえる状況の中で繰り返される出版社と執筆者の攻防、歴史記述をきかっけに倒産に追い込まれた大手教科書出版社の元編集者や保守系の政治家が編める教科書の執筆などへのインタビュー。

- 編集室から
- 五輪の後始末を巡る醜い逮捕劇をはじめ暗潮たるニュースばかりの中で、玉城デニー氏の当選や各所で働く女性たちのニュースは励みになる。日本で働くウクライナ人が戦争をネタにパワハラした上司を訴え、自衛隊員が隊内のセクハラを社会的に告発している。今は決して敗北はあって見えない闘いもやがて面となり大きな力になる。本紙がそぞろした闘いを広げる一助になるよう努力を続けたい。（東京）
 - 8月は「国葬反対街頭行動」を中心とした。この行動に初めて参加したという人の中に、少し時代が動いた。新しい芽が見えるかなという気がした。今日日本も世界も、大きく動いている中でそれを革命的に革新しようという主体の側面と「量」が改めて根底から問われている。9月1日には、たまたま公園で久々の大集会その思いを持って参加する。（乱）
 - 国に多大の迷惑をかけた存在の「国葬」の是非？ 問うまでもなくアリエナイ。統一のドコ国拡大の方。その人物が世界に嘘をついてまで招致した東京五輪の不正疑惑がこれまたオマケ？ まさに裏ばかりの醜態で噂通りの人物たちに次々捜査の手が及びもはや一大疑獄の様相だ。悪徳の蔓延に神の怒りを受けた旧約聖書のソドム市さながらに日本は地底に沈むのか。夜明け前の闇が一番暗いと言ったが、嘆いても始まらない。今の誤りを正しく総括し得るこそ「再生」という言葉を口にできる。（関西M）

- 「モンズ取扱店」
- 群馬 ●三光堂書店 伊勢崎市大車町2の15
 - 神奈川 ●中原ブックランド 川崎市中原区小杉町3の1
 - 東京 ●書房クワンテ 千代田区神田神保町1の3
 - 新潟 ●模索舎 新潟県新潟市2の4の9
 - 愛知 ●豊川カルミア 豊橋市花田町西宿無番地
 - 福岡 ●ウツタ書店 名古屋市千種区今池1の6
 - 岐阜 ●丸圭書店 美濃加茂市大田町2355-1
 - 香川 ●讃州書店 高松市松島町2の109
 - 福岡 ●金橋堂 福岡中央区東香江2の27
 - 沖縄 ●フックスじいん 宜野湾市真栄原2の3の3